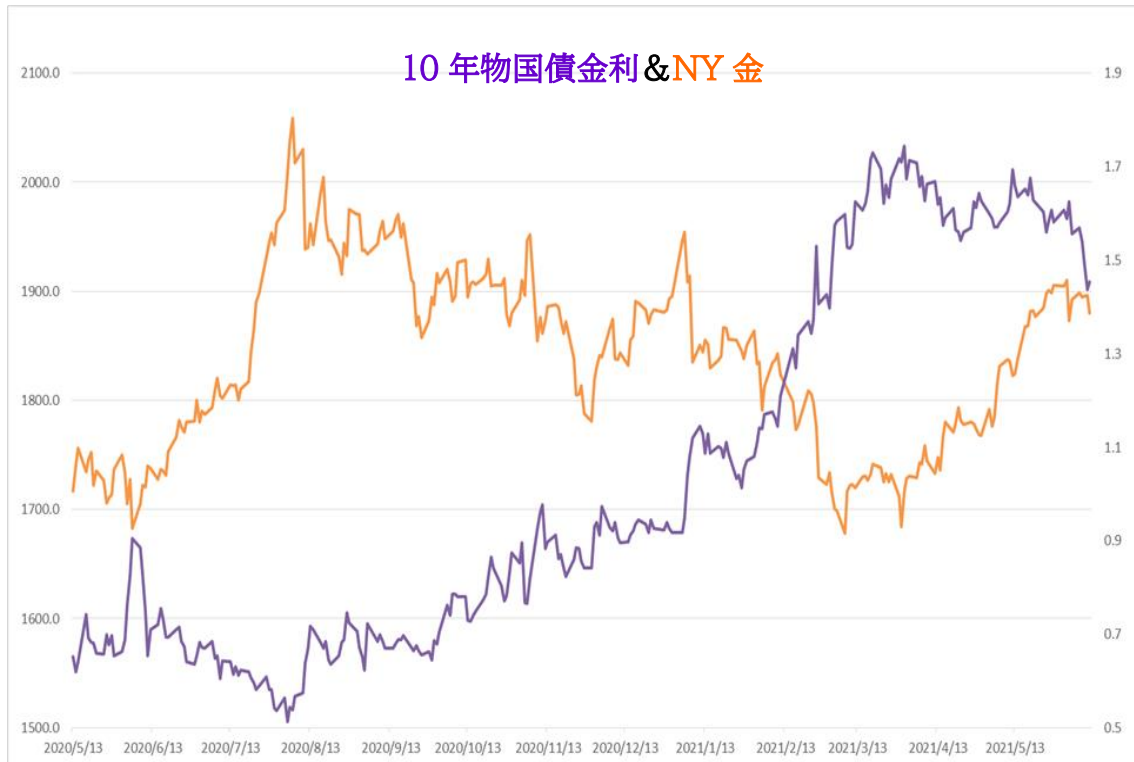


<金標準、FOMC 以降の金利上昇に注意>



(出所：岡地)

雇用統計でも今週の FOMC に向けたテーパリングの協議開始の思惑は確証を得る事が出来なかった。また消費者物価指数 (CPI) でも事前予想の 0.5%を上回る 0.6%となったが、中身が中古車、トラックが 7.3%、航空運賃が 7%、自動車レンタルが 12.1%と大きく貢献した状態であり、金融当局者が指摘しているインフレ率の高まりが一時的であることを肯定する内容となっている。そのため今週 15、16 日に開催される FOMC では市場が期待するテーパリングの早期の協議開始のアナウンスは聞かれられない可能性が高くなっている。

特に債券市場では、テーパリングの早期の協議開始に向けた思惑が外れ 10 年物国債売りポジションが巻き戻しの買いを強めるなど 3 月以来の 1.42%まで金利は低下している。

上のチャートで示す 10 年物国債金利と NY 金の相関関係では、金利が上昇すると NY 金は下落を強めており、逆に金利の上昇が止まると NY 金は上昇を強めだす逆相関の関係である事が分かる。

そのため今週の FOMC に向けた金利低下が進む過程で、NY 金は下げ渋る展開を続けるが、FOMC 以降は、8 月にカンザスシティ連銀主催のジャクソンホールで開催される FRB シンポジウムに向けテーパリングの早期の協議開始の思惑から金利上昇の動きを受け NY 金は下値追いに向けた値動きに変化して来る可能性が高まりを見せて来ると思われる。

特に金標準先物でも 6670 円以上は売りが高まると思われ、6 月 4 日に付けた安値 6581 円を下回る可能性は高まると思え、戻り売りの対応が妥当と予想される。

(2021 年 6 月 13 日記載)